

・急性外耳炎：Belladonnaでうまくいかなかったときの初期症状。ズキズキします。寒さから難聴になることがあります。生理中に悪化します。

・中耳炎

・扁桃炎

・頭痛：とくに発熱時。頭皮が過敏になります。ズキズキします。冷湿布で楽になります。

・原因不明の発熱

■血管系

・貧血

・鼻血：鮮血で、とくに子供の鼻血

■呼吸器系

・肺炎：とくに右側

・咯血：鮮血が出ます。

■その他

・急性/慢性鉄中毒

・尿失禁：日中に起こります。横になると出ません。多尿の傾向があり、何か飲むとすぐに排尿したくなります。膀胱頸部に炎症を起こしていることもあります。

・痔

・扁桃腺摘出術後：術後にヒリヒリと痛み、出血を伴うことがあります。

・遺尿症：子供。日中に漏らしてしまいます。水はた

くさん飲みます。

Ferrum phos.はAconiteとGelseniumの中間に相当すると覚えるといいでしょう。

(発熱に関してはAconiteとBelladonnaの中間)

MODALITY

➤ ゆっくりとした運動、冷湿布、横になること

➤ 夜、午前4～6時、触られること、急な動き、運動、震動、右側、寒い空気、隙間風、冷たい飲物、肉、酸っぱい物、コーヒー、ケーキなど

補足) Schuesslerの12組織塩 (Tissue Salts)

ドイツのSchuesslerが1872年に始めたものです。当時は貧相な食生活のためのものでした。現代では、食生活はよくなりましたが、質的な面が悪くなったため使用されます。用途はいろいろですが、レメディと併用して多くの疾患のサポートに使用できます。

たとえば、Ferrum phos塩は、正常な血液循環や血液の酸素運搬を助けるので、他の治療剤の補助としていつでも使用できます。

一般的には、子供や動物の単純な疾患の治療、急性疾患に使用されています。これは予防と治療目的で、6xか12xのものを使います。治療中も治療後も長期にわたって使用できます。

12すべての組織塩は、より高いポテンシーで通常のホメオパシーとして使用されます。

Fluoricum acidum フッ化水素酸 HF [物質主義]

Hydrofluoric acid-HF

BACK GROUND

Fluoricum acidum フッ化水素酸は、比重1.002 (20℃)、融点-83.37℃、沸点19.91℃で、水素とフッ素から成る、水によく溶ける無色のフッ化水素の液体です。フッ化水素酸のもとになるフッ素Fは、淡黄色の刺激臭のある気体です。水とフッ素を反応させるとフッ化水素と酸素を生じます。このフッ化水素は、無色で刺激臭のある気体です。水によく溶けて、弱酸性のフッ化水素酸になります。工業の分野では、ホタル石（フッ化カルシウムCaF₂）に濃硫酸を反応させて精製します。

フッ化水素酸は、ガラスの成分であるケイ酸と反応して腐食させることによって、ガラスを溶かす性質ももっています。同様に石英、陶磁器も溶かします。そ



のため保存には、ガラスの容器は使わずに、ポリエチレン容器などを使用します。フッ化水素酸はガラス、肥料、医薬品、半導体産業の製造過程で使用されてい

るほか、金属の表面処理や無機フッ化合物の製造などに使用されている化学薬品です。

フッ化水素酸による毒性は強く、酸としての毒性とフッ素自体の毒性の両方があります。酸としては、弱酸性にもかかわらず、塩酸や硫酸のように、刺激性、腐食性が非常に強く、接触部位に化学火傷を引き起こします。呼吸器系に吸い込んだ場合にも、気道粘膜の損傷と炎症、肺水腫を引き起こします。弱酸性でも強酸の性質をもつ理由は、フッ化水素酸溶液中のフッ素の電気陰性度が強く、溶液中の分子どうしの水素結合が緩くなっていることに起因しています。

フッ素としての毒性は、細胞に対する毒性と体内酵素の働きを阻害する作用による毒性、フッ素が体内のカルシウムと結合してしまうことによる毒性があります。そのため、摂取または吸収したフッ素量が多ければ、体内の有効血中カルシウム濃度は低下していきます。それとは逆に、歯磨きに含まれているフッ素は、歯のカルシウムと結合して歯をより硬くする効果を目的としています。ただし、このフッ素も歯磨き後に十分うがいをしてしないと、口の中に残留し、飲み込むことによって胃の中で毒性の強いフッ化水素酸に速やかに変わります。その結果、血液中に取り込まれて体内循環に入り、全身に毒性が広がるのがわかっています。成人の場合には、大部分が尿中に排泄されていきますが、子供では30～40%が排泄されずに、骨に沈着してしまうと言われています。成人の血液中の半減期は、2～9時間です。

フッ化水素酸の曝露による症状には、次のようなものがあります。

- ・経口：口内炎、舌炎、流涎、消化管の炎症、組織の腐食による潰瘍水泡形成、嘔吐、下痢、腹痛、粘膜の出血、咽頭浮腫、気管支炎、肺炎、肺水腫、呼吸困難、不整脈、低カルシウム血症による各種症状、高カリウム血症、アシドーシス、昏睡、心筋障害、中枢神経障害など
- ・経皮：皮膚の痛み、紅斑、炎症、潰瘍、壊死
- ・吸入：呼吸器系の炎症、浮腫、呼吸困難、チアノーゼ、気道閉塞
- ・眼：激しい痛み、流涙、角結膜炎、眼球穿孔、失明、瘢痕収縮など

慢性化した場合には、体重減少、骨粗鬆症、貧血、疲労感、脱力、関節の強直、骨と靱帯へのカルシウム沈着などが起こります。幼児では、歯の色の変色を起こすことがあります。

また、フッ素には発癌性や甲状腺腫との関連があるという報告もされています。そのため甲状腺ホルモンと関連性のあるADHD（Attention Deficit Hyperac-

tivity Disorder）も、フッ素による影響が示唆されています。

FIRST PROVING

Hering（『Guiding Symptoms of Our Materia Medica』）

MIND

Fluoricum acidumタイプは、非常に活気があり、楽天的で、血色も良く、健康なときには精力的に活動します。子供の場合には、活動過多のことがあり、精神運動中枢の不安定さも見られます。

病気が長引くと疲労困憊してしまいます。通常は、利己主義で行動するために、人との付き合いよりも、自己満足を優先させる傾向があります。他人に対しては、支配的な行動に出ることがあります。ホメオパシーの問診の間にも、自分が主導権をとろうとします。そのため人と深くつき合うことはしません。性欲は強く、誰とでも寝ることをいとわないほど夢中になることがあります。愛する家族や恋人を嫌うようになる傾向もあります。

物質主義的な傾向が強く、精神的に未熟な面があります。日和見的な考えをもち、自由主義で、放蕩的な行動に出ることもあります。

スパイシーで刺激性の食べ物を好みます。体は温かく、汗はかきやすいほうです。汗は不快な臭いがする傾向があり、とくに足の指の間はくさいです。

AFFINITY

Fluoricum acidumは、主に、線維結合組織（とくに静脈壁、皮膚、爪など）、骨、乳様突起などに作用します。右側優勢レメディです。

CLINICAL APPLICATIONS

■皮膚、繊維組織、骨組織

- ・爪の変形：爪の成長は早く、形が変形し、弱い爪になります。部分的に肥厚したり、波状の皺ができることがあります。
- ・骨膜炎
- ・骨炎
- ・骨髄炎
- ・骨腫瘍
- ・関節痛
- ・静脈瘤性潰瘍
- ・静脈瘤、静脈瘤性湿疹：しばしば痛みを伴います。局所の冷湿布で改善されます。
- ・肛門痒痒、外陰部痒痒症

- ・血管腫：小さなものに適用されます。
- ・肥厚性癬痕
- ・脱毛症：高熱の出る疾患の後に、髪がまばらに抜けます。円形脱毛症になることもあります。新しい毛もばさついで、艶がありません。
- ・虫歯：初期の段階。歯のエナメル質が薄く、とくに歯根部の近くの齲食が急速に進行していきます。

■その他

- ・性欲過剰
- ・持続勃起症：常に性的なことに夢中になります。
- ・勃起不全：通常、過度の性交の後に起こります。
- ・頭痛：排尿を我慢すると悪化します。排尿すると楽になります。頭蓋の縫合線に沿って痛みを感じます。
- ・鼻感冒：多量の水様性の鼻みずが出ます。

MODALITY

- 冷水浴、外気、冷湿布、涼しい部屋、急な動き、短時間の睡眠、頭を後ろに反らすこと、食事、排尿など
- ✖ 暑さ、熱い空気、温かい食事、熱い飲物、冬の厳しい寒さ、夜、アルコール飲料、赤ワイン、酸っぱい食べ物など

RELATIONS

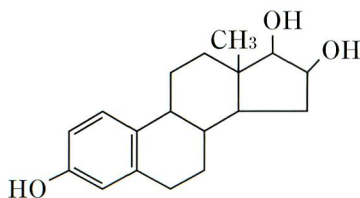
- ・ Complementary : Silica
- ・ Compatible : Arsenicum album, Kali carbonicum, Phos-acidの後
- ・ Followed well by : Sulphur, Nitricum acidum

Folliculinum エストロゲン $C_{18}H_{22}O_2$ [女性ホルモン]

Estrogen- $C_{18}H_{22}O_2$

BACK GROUND

Folliculinum は、卵胞ホルモンとも呼ばれる女性ホルモンの1つ、エストロゲンです。排卵、月経、妊娠、授乳など女性の生殖機能を司るホルモンで、月経の終わり頃から排卵前にかけて分泌が高まります。エストロゲンは、40代半ば頃から分泌が急激に減少しはじめ、50歳頃にはエストロゲンの分泌低下により、月経がなくなります。これが閉経で、その前後の時期を更年期と呼び、さまざまな精神的身体的症状が出ることがあります。



エストロゲンが年齢とともに分泌低下するのは、自然なホルモン分泌の流れなのですが、これをさまざまな形で外部から補充することによって、内部攪乱物質となり、身体の深い所から時間をかけて影響していきます。

著者は当初、このレメディは、避妊ピルやホルモン補充療法などが欧米ほど普及していない日本では、重

要視されていませんでした。ところが、明らかに必要な例が多く、実はエストロゲンは、食肉を通して日本でも非常に広く深く蔓延していることがわかりました。

牛や鶏の餌に多量のエストロゲンを混ぜると、肉がむくんでより肥育しやすく、また乳の出もよくなることから、長い間使用されてきました。この影響は、将来にわたって長く続きます。エストロゲンが長い期間にわたって弊害を及ぼすことは、欧米での非常に多くの症例から、証明されています。いわば、環境ホルモンのような作用を示します。

1940年代から1970年代初頭にかけて、欧米諸国で、妊婦に合成エストロゲン製剤であるジエチルスチルベストールが、妊娠中の補助剤として広く使用されていました。しかしながら、数十年後の疫学的調査で、この製剤を飲んだ母親から生まれた子供たちは、膣・頸部腺癌、膣上皮の変化、子宮の奇形、早産、不妊、子宮外妊娠（以上女兒）、精巣發育不全などの各種生殖系疾患の発生率が、著しく高いことが判明しました。このように、エストロゲンの影響は、非常に長い期間を経てから顕在化していき、親から子へと受け継がれます。

米国立癌研究所は、閉経後の健康な女性へのエストロゲン補充療法で、卵巣癌になる確率が増加すること